



2022年5月13日

各 位

会 社 名 日精樹脂工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 依田 穂積
(コード：6293 東証プライム・名証プレミアム市場)
問合せ先 常務取締役 宮下 浩
(TEL 0268-82-3000)

第四次中期経営計画（2022年度～2024年度）の策定に関するお知らせ

当社グループは、2022年度（2023年3月期）を初年度とした3カ年の第四次中期経営計画を策定しましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 第四次中期経営計画の策定背景

当社グループは「プラスチックをとおして人間社会を豊かにする」を経営理念として、本年10月に、創業より75周年を迎えることになりました。

この間、当社グループが製造・販売するプラスチック射出成形機は、自動車、IT、医療容器等の幅広い業種・業界に深く関わる製品で、人々の社会生活を支える上で欠かせないものとなっております。一方で海洋汚染問題や脱炭素社会の実現、資源循環システムの構築といった昨今の社会課題の解決に対して、当社グループが製品開発や販売活動を通じてどのように貢献できるかといったことが更なる需要の拡大に繋がると予想されます。

2019年度を初年度とした3カ年の第三次中期経営計画においては、当社が目指す姿として「グローバル経営を進化させ、グローバル環境への対応を図り、フューチャーデザイン 2026の達成に向けた体制作りを行う」という方針のもと、真のグローバル経営の強化、グローバル市場への積極的展開による販売増強、グローバル生産体制の強化、グローバルリスク管理体制の強化、を進めてまいりました。

その結果、次のような主要な成果をあげることができました。

・プロダクト戦略では、イタリア・ミラノのNEGRI BOSSI S.P.A.の株式取得による子会社化により世界5極生産体制が確立しグローバル市場において最適な機種を最適地で生産することがより強化されました。また中国太倉工場を増床し生産機種の見直しや生産の効率化を図りました。更には海外工場での部材の現地調達率拡大、本社工場での大型工作機械導入による部品加工内製化推進により、グローバルサプライチェーンの強化、生産効率化、コストダウン等を実現してまいりました。

・セールス戦略では、米国工場と米国販社を統合し製造・販売・財務の経営管理体制の一元化、経営の効率化を実現しました。日本国内においては、中大型機・堅型機・専用機の拡販のため西日本テクニカルセンターを設置しユーザーの利便性を考慮した営業展開を行い、コロナ禍における営業推進の場として本社、西日本等でプライベート展を開催するなど、需要の創出を図りました。

・商品戦略では、中長期的なロードマップに基づいた計画的な商品開発を行い、低床堅型機のラインナップ、省スペース横型機の開発、電気式射出成形機のモデルチェンジ等を実施しました。また PLA（ポリ乳酸）専用射出成形システムの開発・販売の取り組みを通じて、ゼロカーボンを意識した製品、サービスの普及拡大に努めてまいりました。更には IoT 技術を活用し、お客様の生産性向上に資するビジネスモデルの展開を図りました。

第四次中期経営計画では、長期的な観点からの成長戦略や業績目標を見据えて取組んできた経営目標「フューチャーデザイン 2026」の達成に向けた総仕上げとして、世界5極生産体制と販売体制の強化と共に、社会課題の解決に根差した当社グループの企業価値向上に繋げてまいります。

2. 数値計画

	2022年3月期実績	2023年3月期計画	2025年3月期計画
連結売上高	48,731百万円	51,000百万円	64,000百万円
連結営業利益	2,577百万円	3,000百万円	4,200百万円
連結営業利益率	5.3%	5.9%	6.5%

概要につきましては、添付資料をご参照ください。

※ 本資料に記載されている中期経営計画等の将来に関する記述等については、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上



第四次中期経営計画【2022年度～2024年度】について

日精樹脂工業株式会社

2022年5月13日

射出成形機業界の動向

- ✓ ウィズコロナを踏まえた設備投資需要
- ✓ 半導体を中心とした部材調達難
- ✓ 部品加工先の逼迫
- ✓ 競合メーカーの戦略の相似化(競争激化)、価格競争の激化
- ✓ 新興国メーカーの台頭

社会・経済構造の変化、社会の要請

- ✓ 持続可能な社会の実現への推進・強化
- ✓ プラスチックに係る資源循環の促進
- ✓ ESG経営を基盤とした企業の長期的成長
- ✓ TCFDへの対応
- ✓ ダイバーシティの推進、女性活躍推進
- ✓ 人的資本経営

業種別動向

- ✓ 自動車産業の変革⇒EV化、軽量化の推進
- ✓ 環境素材需要への対応、エコマテリアル
- ✓ 電子部品の車載シフト
- ✓ デジタルインフラの整備・普及
- ✓ IoT化、ロボット化の進展、DX化の進展
- ✓ 医療、容器業界の安定推移

世界経済のリスク

- ✓ 為替相場の急激な変動
- ✓ 世界情勢の複雑化・不安定化、地政学リスク
- ✓ 更なる感染症拡大による経済活動の停滞
- ✓ 半導体不足、物流網の混乱とコストアップ
- ✓ 人件費の高騰などインフレリスク

【経営ミッション】

私たちの経営ミッションはお客様の価値を創造することです。そしてお客様に満足していただき、射出成形技術を通して社会に貢献します。

【経営理念】

世界の日精
プラスチックを通して人間社会を豊かにする

【経営目標】

1. グローバル経営体制の強化

- ・ 連結経営機能を更に強化し、グローバル経営を実践する。
- ・ キャッシュフロー経営を重視し、収益力を更に強化する。
- ・ パートナー企業とのサプライチェーンを強化する。

2. お客様満足度の充実

- ・ グローバルネットワークにより、お客様の満足度充実を図り、企業価値を高める。

3. 環境経営の強化

- ・ グローバル環境経営への対応を図り、省資源・省エネルギー等に配慮した取組みを強化する。

4. グローバル人材の育成と活用

- ・ グローバル人材の育成と活用を図る。
- ・ 社員の働きがいを充実させ、グローバル企業としての価値を高める。

当社が目指す3年後の姿

本3ヵ年(2023年3月期～2025年3月期)は、
グローバル環境経営を更に進化させ、
「フューチャーデザイン2026」の
達成に向けた総仕上げを行う。

1. 真のグローバル経営の強化

- 世界規模で進展する市場変化のなかで、グローバル環境経営を強化し、高収益企業としてグローバルな展開を図り、グループ力を発揮する

3. グローバル生産体制の強化

- 5極生産体制により生産能力を増強すると共に、生産技術力と品質保証体制を強化する
- グローバル調達体制の強化と、内製化率向上により更なるコストダウンを図る

経営方針

2. グローバル市場への積極的展開による営業強化

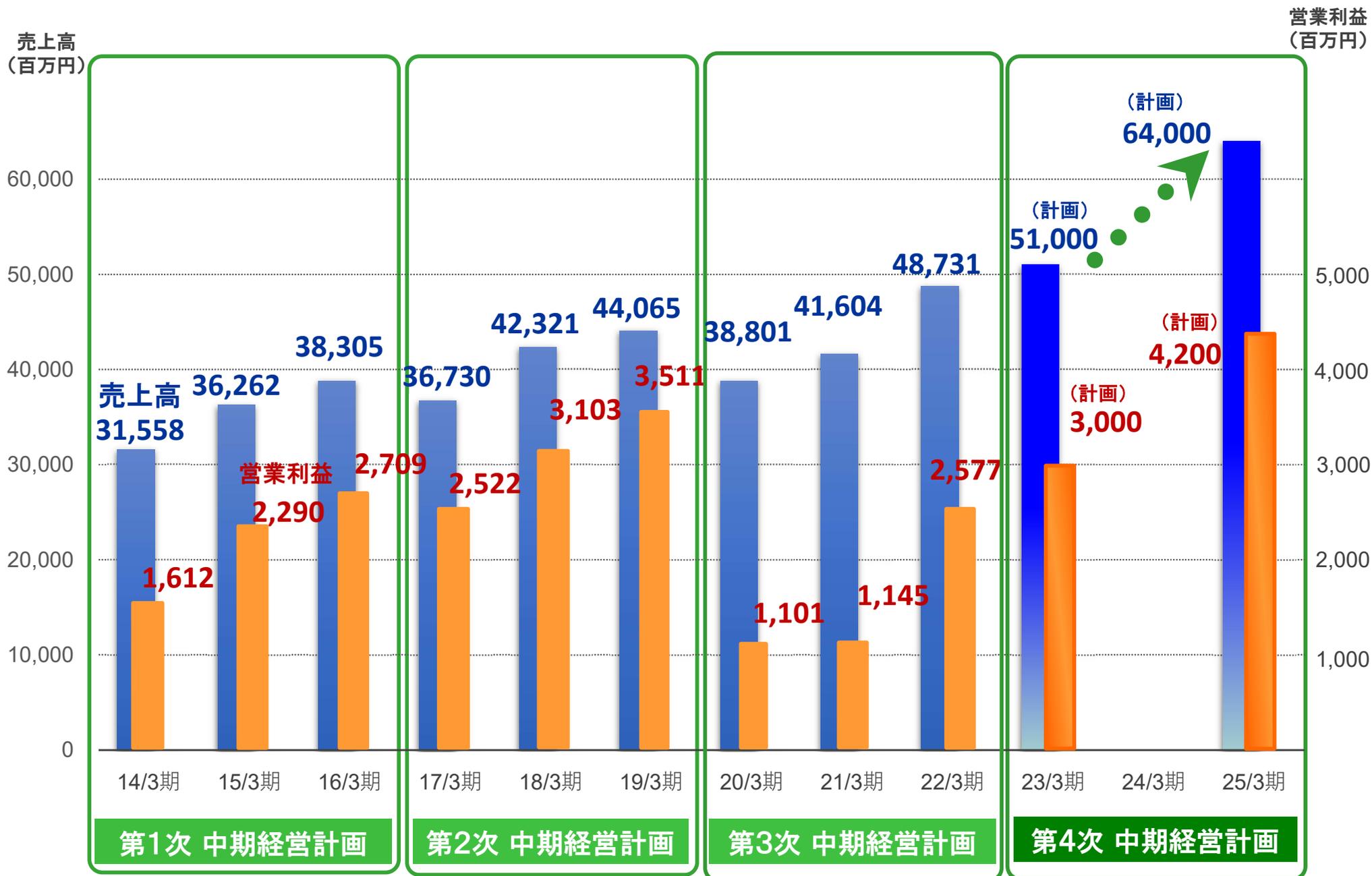
- 営業力の強化と新たなビジネスモデルの創出により売上増大を図る
- お客様の課題解決型企業として、お客様にご満足頂ける提案型営業を行うとともに、ボーダレス化、IoT化に呼応して、グローバル市場への積極的な展開を図る
- 持続可能な開発目標(SDGs)、成形の理(ことわり)を具現化する製品を計画的に投入する

4. グローバルリスク管理体制の強化

- リーガルリスクに対応した製・販・財戦略とグローバルマネジメント体制を強化する
- コーポレートガバナンス、BCP等に対応したグローバルマネジメント体制を強化する
- グローバルに対応できる人材育成を図る

連結売上高・営業利益推移 >>> 数値目標

左軸：売上高、右軸：営業利益





日精樹脂工業株式会社

本資料に掲載されている当社の業績予想、見通し、戦略等につきましては、現在入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因により予想と異なる結果となる可能性があります。
